

卒業時アンケートの結果概要について

教育推進部門長 岡本 吉央

1. 趣旨

大学教育センター、アドミッションセンター及び IR 室では、平成 30 (2018) 年度から、学生思考力調査 (アセスメントテスト及びアンケート聴取) を実施している。

同調査は、学生の「思考力」「姿勢・態度」「経験」を測定し大学で身につけるべき力の可視化を行うことで学生自身が主体的な学びを進めるための動機付けを促すとともに、調査結果を集計・分析し、教育の内部質保証の実質化、学生の満足度測定等の基礎データとして活用することとしている。

本資料は、同調査の一環として令和 4 (2022) 年度に実施したアンケート聴取のうち、卒業研究に着手している学域 4 年次生、修士論文に至る研究を実施している博士前期課程 2 年次生、博士論文に至る研究を実施している博士後期課程 3 年次生の回答を集計し、結果を分析したものである。なお、学域 4 年次生に対するアンケートは平成 30 (2018) 年度に開始し、博士前期課程 2 年次生と博士後期課程 3 年次生に対するアンケートは令和 2 (2020) 年度に開始したため、経年の比較も併せて行う。

2. アンケート実施の概要

調査期間	令和 4 (2022) 年 12 月 7 日 - 令和 5 (2023) 年 2 月 10 日
調査対象者	卒業研究に着手している学域 4 年次生 (回答数 176) 博士前期課程 2 年次生 (回答数 89) 博士後期課程 3 年次生 (回答数 8)
調査方法	学生思考力調査 (GPS-Academic) の一環として実施 学生は Web システムを利用して回答
質問数	大設問 28 問 (大設問それぞれに対して小節門を多数設定)
質問内容	教育全般、授業内容、学生支援、施設環境等

3. アンケート集計結果の概要

3.1 大学の魅力

「大学全体」の魅力として、「自分が学びたい学問分野が学べる」、「カリキュラムや学び方に魅力・特色がある」、「取りたい資格や免許が取得できる」、「教わりたい教員がいる」、「留学支援が充実している・国際交流が盛んである」、「就職に有利、就職支援が充実している」、「知名度がある」、「歴史・伝統がある」、「キャンパス・学生の雰囲気が良い」、「施設・

設備が充実している」、「キャンパスの立地や周辺の環境がよい」、「自宅から通える」、「学費が安い、奨学金が利用できる」、「総合大学である・単科大学である」、「女子大である・共学である」、「その他」、「特にない・わからない」の18項目から1位と2位を選択することを求めた。

1位+2位選択率が高かった上位3項目は、学域4年次生においては、「自分が学びたい学問分野が学べる」(71.0%)、「就職に有利、就職支援が充実している」(44.3%)、「学費が安い、奨学金が利用できる」(20.5%)であった。経年変化を見ると、上位3項目は平成30(2018)年から令和3(2021)年度の調査においても、順位を含めて同じであった。博士前期課程2年次生においては、「自分が学びたい学問分野が学べる」(66.3%)、「就職に有利、就職支援が充実している」(44.9%)、「学費が安い、奨学金が利用できる」(20.2%)であった。経年変化を見ると、上位3項目は令和2(2020)年度と令和3(2021)年度の調査においても、順位を含めて同じであった。博士後期課程3年次生においては、上位2項目が「自分が学びたい学問分野が学べる」(62.5%)、「教わりたい教員がいる」(50.0%)であった(第3位は多くの項目が12.5%であった)。経年変化を見ると、上位2項目は令和2(2020)年度と令和3(2021)年度の調査においても、順位を含めて同じであった。

「学問内容や学び方」に関する魅力として、「学ぶことができる学問分野・領域に特色がある」、「教養教育が充実している」、「専門科目を低学年から学べる」、「専攻やコースなどを入学後にじっくり選ぶことができる」、「語学教育が充実している」、「資格や免許取得の支援が充実している」、「キャリア形成支援・キャリア教育が充実している」、「フィールドワークや実習が多い等、教育内容や方法が実践的である」、「厳しい環境やカリキュラムで鍛えられる」、「丁寧に指導してくれる、教員との距離が近い」、「少人数教育であるため、学びやすい」、「その他」の12項目から1位と2位を選択することを求めた。

1位+2位選択率が高かった上位3項目は、学域4年次生においては、「学ぶことができる学問分野・領域に特色がある」(67.6%)、「専攻やコースなどを入学後にじっくり選ぶことができる」(26.1%)、「特にない・わからない」(22.7%)であった。経年変化を見ると、上位3項目は令和3(2021)年度の調査においても順位を含めて同じであったが、それ以前はここで挙げた3項目以外に「厳しい環境やカリキュラムで鍛えられる」も選択率が高かった(令和2年度25.4%、令和3年度20.4%、令和4年度18.8%)。また、「専攻やコースなどを入学後にじっくり選ぶことができる」は令和3(2021)年度においては36.6%であり、令和4(2022)年度において選択率が大きく下降した。博士前期課程2年次生においては、「学ぶことができる学問分野・領域に特色がある」(75.3%)、「専攻やコースなどを入学後にじっくり選ぶことができる」(24.7%)、「丁寧に指導してくれる、教員との距離が近い」(20.2%)であった。経年変化を見ると、前年度に比べて、「厳しい環境やカリキュラムで鍛えられる」の選択率は顕著に下降した(令和3年度23.6%、令和4年度14.6%)。博士後期課程3年次生においては最も選択率の高かった項目は「学ぶことができる学問分野・領域に特色がある」であった(50.0%)。次点は選択率が37.5%の「丁寧に指導してくれる、教員との距離が近い」、「特にない・わからない」であった。

3.2 目標・カリキュラム・授業内容の理解

4つの設問「科目間の関連やカリキュラムの全体像を理解できている」、「大学は、シラバスやガイダンスなどで個々の授業内容に対する情報を十分に提供している」、「あなたが通う大学で、自分の将来に必要な学びを得ることができると思う」、「所属する学部・学科の教育目標（どのような人材の育成を目指しているか）を知っている」に対して、「非常にあてはまる」、「ややあてはまる」、「あまりあてはまらない」、「まったくあてはまらない」の4段階で回答を求め、「非常にあてはまる」と「ややあてはまる」と回答した割合を肯定回答率とした。

学域4年次生に対して、令和3(2021)年度と比較するといずれの項目も肯定回答率が上昇した。特に、「あなたが通う大学で、自分の将来に必要な学びを得ることができると思う」の肯定回答率は令和3(2021)年度91.5%、令和4(2022)年度95.5%であった。博士前期課程2年次生・博士後期3年次生においても肯定回答率はすべての項目で高かった。

2022年度肯定回答率	学域 4年次	博士前期 2年次	博士後期 3年次
科目間の関連やカリキュラムの全体像を理解できている	89.2	91.0	75.0
大学は、シラバスやガイダンスなどで個々の授業内容に対する情報を十分に提供している	90.3	91.0	100.0
あなたが通う大学で、自分の将来に必要な学びを得ることができると思う	95.5	95.5	100.0
所属する学部・学科の教育目標（どのような人材の育成を目指しているか）を知っている	68.8	78.7	100.0

3.3 入学後のイメージ変化

「よくなった」、「変わらない」、「悪くなった」の3段階で回答を求めた。経年変化を含めて、回答率(%)は次の表のとおりとなった。

学域4年次	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
よくなった	21.7	26.6	28.8	28.9	35.2
変わらない	57.8	50.0	54.8	61.3	54.5
悪くなった	20.5	23.4	16.4	9.9	10.2

博士前期2年次	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
よくなった			40.8	37.1	37.1
変わらない			53.9	59.6	52.8
悪くなった			5.3	3.4	10.1

博士後期3年次	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
よくなった			50.0	35.7	37.5
変わらない			50.0	57.1	62.5
悪くなった			0.0	7.1	0.0

3.4 成長実感

4段階で回答を求め、以下「強く実感する」と「やや実感する」の合計を肯定回答率(%)、「あまり実感しない」と「まったく実感しない」の合計を否定回答率(%)とした。経年変化を含めて次の表のようになった。

学域4年次	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
肯定回答率	84.0	81.8	83.0	85.9	89.2
否定回答率	15.9	16.3	16.9	14.1	10.8

博士前期2年次	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
肯定回答率			94.8	86.6	92.1
否定回答率			5.3	13.4	7.9

博士後期3年次	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
肯定回答率			90.0	100.0	100.0
否定回答率			10.0	0.0	0.0

3.5 学部・学科のお勧め度

4段階で回答を求め、以下「とても勧めたい」と「まあ勧めたい」の合計を肯定回答率(%)、「あまり勧めたくない」と「まったく勧めたくない」の合計を否定回答率(%)とする。経年変化も含め、次の表のようになった。

学域4年次	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
肯定回答率	65.4	68.6	67.8	78.9	83.5
否定回答率	34.6	31.3	32.2	14.1	16.5

博士前期2年次	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
肯定回答率			84.2	85.4	92.1
否定回答率			15.8	14.6	7.9

博士後期3年次	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
肯定回答率			100.0	85.7	87.5
否定回答率			0.0	14.2	12.5

3.6 大学教育・学生生活への満足度

9項目「カリキュラム（入学から卒業までの科目配置や履修の体系）」、「授業内容」、「教員」、「語学教育・語学力向上支援」、「留学・国際交流支援」、「キャンパス環境・学生サービス」、「就職・進路支援」、「友人との人間関係」、「学生窓口対応」に対して、「とても満足している」、「まあ満足している」、「あまり満足していない」、「まったく満足していない」、「わからない・該当しない」の5段階で回答を求めた。「とても満足している」と「まあ満足している」の選択率を肯定回答率（%）、「あまり満足していない」と「まったく満足していない」の選択率を否定回答率（%）とする。

学域4年次生において、肯定回答率の高い上位3項目は「授業内容」（90.4%）、「教員」（87.5%）、「カリキュラム（入学から卒業までの科目配置や履修の体系）」（82.9%）であり、肯定回答率の低い下位3項目は「留学・国際交流支援」（27.3%）、「語学教育・語学力向上支援」（48.3%）、「学生窓口対応」（53.4%）であった。一方、否定回答率の高い上位3項目は「語学教育・語学力向上支援」（42.6%）、「キャンパス環境・学生サービス」（27.3%）、「留学・国際交流支援」（18.8%）であり、否定回答率の低い下位3項目は「教員」（9.1%）、「授業内容」（9.7%）、「就職・進路支援」（13.1%）であった。

博士前期課程2年次生において、肯定回答率の高い上位3項目は「授業内容」（92.1%）、「友人との人間関係」（87.6%）、「カリキュラム」（87.6%）であり、肯定回答率の低い下位3項目は「留学・国際交流支援」（32.6%）、「語学教育・語学力向上支援」（47.2%）、「学生窓口対応」（59.6%）であった。一方、否定回答率の高い上位3項目は「語学教育・語学力向上支援」（41.5%）、「キャンパス環境・学生サービス」（32.6%）、「留学・国際交流支援」（23.6%）であり、否定回答率の低い下位3項目は「授業内容」（7.8%）、「就職・進路支援」（10.1%）、「友人との人間関係」（10.1%）であった。

博士後期課程3年次生において、肯定回答率の高い上位4項目は「教員」（100.0%）、「カリキュラム」（87.5%）、「友人との人間関係」（75.0%）、「授業内容」（75.0%）であり、肯定回答率の低い下位3項目は「語学教育・語学力向上支援」（25.0%）、「留学・国際交流支援」（25.0%）、「就職・進路支援」（25.0%）であった。一方、否定回答率の高い上位4項目は「就職・進路支援」（50.0%）、「学生窓口対応」（37.5%）、「留学・国際交流支援」（37.5%）、「語学教育・語学力向上支援」（37.5%）であり、否定回答率の低い下位5項目は「教員」（0.0%）、「カリキュラム」（12.5%）、「授業内容」（12.5%）、「キャンパス環境・学生サービス」（12.5%）、「友人との人間関係」（12.5%）であった。

3.7 教育施設の利用度

6項目に対して、「非常によく利用する」、「まあ利用する」、「あまり利用していない」、「まったく利用していない」、「施設がない」の5段階で回答を求めた。「非常によく利用する」と「まあ利用する」の選択率を肯定回答率、「あまり利用していない」と「まったく利用していない」の選択率を否定回答率とする。まとめると以下の表のとおりとなった。

2022年度	学域4年次		博士前期2年次		博士後期3年次	
	肯定	否定	肯定	否定	肯定	否定
ラーニングコモンズなどの学習支援施設	29.6	68.8	35.9	57.3	37.5	62.5
図書館（蔵書、レファレンスサービス）	64.8	35.2	66.3	33.7	50.0	50.0
パソコンルーム	28.4	71.6	34.8	65.1	0.0	100.0
語学学習センター	5.7	80.2	12.3	78.6	12.5	87.5
実験室・演習室	47.7	51.7	42.7	57.3	25.0	75.0
研究室	90.4	9.1	92.2	7.9	87.5	12.5

3.8 授業の役立ち度

「論理的・批判的思考力」、「数量的・統計的スキル」、「情報リテラシー」、「問題解決力」、「チームワーク・リーダーシップ」、「プレゼンテーションスキル」、「ディスカッションスキル」、「コミュニケーションスキル」、「文章作成力」、「語学力」の10項目に対して、4段階で回答を求めた。「とても役に立っている」と「まあ役に立っている」の回答率の合計を肯定回答率とした。

学域4年次生において、肯定回答率の高い上位3項目は「数量的・統計的スキル」(97.2%)、「情報リテラシー」(95.5%)、「文章作成力」(89.8%)であり、肯定回答率の低い下位3項目は「語学力」(43.2%)、「チームワーク・リーダーシップ」(44.3%)、「コミュニケーションスキル」(58.5%)であった。経年変化を見ると、どの項目についても平成30(2018)年度からは上昇しており、例えば「文章作成力」は平成30(2018)年度65.0%、令和元(2019)年度71.8%、令和2(2020)年度73.4%、令和3(2021)年度81.7%、令和4(2022)年度89.8%と大幅に上昇している。

博士前期課程2年次生において、肯定回答率の高い上位3項目は「プレゼンテーションスキル」(95.5%)、「論理的・批判的思考力」(94.4%)、「数量的・統計的スキル」(94.4%)であり、肯定回答率の低い下位3項目は「語学力」(55.1%)、「チームワーク・リーダーシップ」(60.7%)、「コミュニケーションスキル」(70.8%)であった。経年変化を見ると、令和3(2021)年度に比べて「プレゼンテーションスキル」の肯定回答率が大きく上昇したが(令和3(2021)年度84.3%、令和4(2022)年度95.5%)、「情報リテラシー」の肯定回答率が大きく下降した(令和3(2021)年度93.3%、令和4(2022)年度89.9%)。

博士後期課程 3 年次生において、肯定回答率の高い上位 4 項目は「論理的・批判的思考力」(100.0%)、「数量的・統計的スキル」(100.0%)、「問題解決力」(100.0%)、「コミュニケーションスキル」(100.0%) であり、肯定回答率の低い下位 3 項目は「チームワーク・リーダーシップ」(75.0%)、「文章作成力」(75.0%)、「語学力」(64.3%) であった。

3.9 授業・カリキュラム評価

6 項目に対して、A と B という対立する選択肢を提示し、「A にあてはまる」、「A にややあてはまる」、「どちらともいえない」、「B にややあてはまる」、「B にあてはまる」の 5 段階で回答を求めた。「A にあてはまる」と「A にややあてはまる」の回答率の合計を A 回答率とし、「B にあてはまる」と「B にややあてはまる」の回答率の合計を B 回答率とする。

「A 単位を楽に取れる授業がよい」と「B 興味のある授業がよい」に対して、学域 4 年次生では、A 回答率が 33.6%、B 回答率が 50.6%であった。経年変化を見ると、B 回答率が令和 3 (2021) 年度から大きく上昇した(令和 3 (2021) 年度 B 回答率 38.8%)。博士前期課程 2 年次生では、A 回答率が 37.1%、B 回答率が 43.9%であり、博士後期課程 3 年次生では、A 回答率が 12.5%、B 回答率が 62.5%であった。

「A 授業のレベルが高すぎる」と「B 授業のレベルが低すぎる」に対して、学域 4 年次生では、A 回答率が 28.9%、B 回答率が 9.6%であった。経年変化は A 回答率も B 回答率もほぼ横這いの傾向があった(令和 3 (2021) 年度は A 回答率が 31.0%、B 回答率が 6.3%であった)。博士前期課程 2 年次生では、A 回答率が 38.2%、B 回答率が 5.6%であり、博士後期課程 3 年次生では、A 回答率が 37.5%、B 回答率が 0.0%であった。

「A 授業で出される課題が多く、負荷が高すぎる」と「B 授業で出される課題が少なく、負荷が低すぎる」に対して、学域 4 年次生では、A 回答率が 44.4%、B 回答率が 15.4%であった。経年変化を見ると、令和 3 (2021) 年度に比べて A 回答率が下降し(令和 3 (2021) 年度 A 回答率 59.9%)、B 回答率が上昇した(令和 3 (2021) 年度 B 回答率 8.4%)。博士前期課程 2 年次生では、A 回答率が 50.6%、B 回答率が 7.9%であり、博士後期課程 3 年次生では、A 回答率が 37.5%、B 回答率が 0.0%であった。

「A 教員との距離が近い」と「B 教員との距離が遠い」に対して、学域 4 年次生では、A 回答率が 35.2% (令和 3 (2021) 年度は 31.7%)、B 回答率が 29.0%であった(令和 3 (2021) 年度は 32.4%)。博士前期課程 2 年次生では、A 回答率が 39.3%、B 回答率が 24.8%であった。博士後期課程 3 年次生では、A 回答率が 62.5%、B 回答率が 0.0%であった。

「A 自由に意見を言ったり、議論したりする場が多い」と「B 自由に意見を言ったり、議論したりする場が少ない」に対して、学域 4 年次生では A 回答率が 22.7%、B 回答率が 49.5%であった。博士前期課程 2 年次生では A 回答率が 28.1%、B 回答率が 40.5%であり、博士後期課程 3 年次生では A 回答率が 87.5%、B 回答率が 12.5%であった。

「A 周囲の学生の意識が高い」と「B 周囲の学生の意識が低い」に対して、学域 4 年次生では A 回答率が 48.9%、B 回答率が 12.5%であった。令和 3 (2021) 年度には A 回答率が 45.8%、B 回答率が 17.6%であり、「意識が高い」方に向く傾向が見えた。博士前期課程

2 年次生では A 回答率が 48.3%、B 回答率が 13.4%であり、博士後期課程 2 年次生では A 回答率が 50.0%、B 回答率が 12.5%であった。

3.10 力を入れたこと

「専門分野の勉強（採用試験対策のための勉強を除く）」、「教養を身につけるための勉強」、「卒業研究」、「語学に関する勉強」、「留学または留学のための準備」、「資格取得・スキル習得のための勉強」、「公務員・教員等の採用試験対策のための勉強」、「就職活動に向けた準備（業種・企業研究、人脈づくりなど）」、「クラブ活動（部活動）、サークル活動」、「友人や先輩・後輩など、人との交流」、「社会活動（ボランティア、NPO など）」、「アルバイト」、「その他」、「特にない」の 14 項目から 1 位、2 位、3 位の選択を求めた。1 位と 2 位と 3 位の選択率の合計を以下では選択率と呼ぶ。

学域 4 年次生では、選択率の高い上位 3 項目は「卒業研究」（75.6%）、「専門分野の勉強」（71.0%）、「クラブ活動（部活動）、サークル活動」（29.5%）であり、選択率の低い下位 3 項目は「公務員・教員等の採用試験対策のための勉強」（0.0%）、「留学または留学のための準備」（1.1%）、「社会活動」（1.7%）であった。昨年度と比較すると、選択率が大幅に上昇したのは「教養を身につけるための勉強」（令和 3（2021）年度 25.4%、令和 4（2022）年度 30.7%）、「特にない」（令和 3（2021）年度 7.0%、令和 4（2022）年度 13.6%）、「語学に関する勉強」（令和 3（2021）年度 3.5%、令和 4（2022）年度 7.4%）であった。一方、選択率が大幅に減少したのは「卒業研究」（令和 3（2021）年度 80.3%、令和 4（2022）年度 75.6%）、「クラブ活動（部活動）、サークル活動」（令和 3（2021）年度 37.3%、令和 4（2022）年度 29.5%）、「アルバイト」（令和 3（2021）年度 27.5%、令和 4（2022）年度 22.2%）であった。ただし、卒業研究について、令和 3（2021）年度の調査は卒業研究終了後に行ったことに対して、令和 4（2022）年度の調査は卒業研究遂行中に行ったことが影響を与えているかもしれないため、注意が必要である。

博士前期課程 2 年次生では、選択率の高い上位 3 項目は「卒業研究」（76.4%）、「専門分野の勉強」（62.9%）、「クラブ活動（部活動）、サークル活動」（34.8%）であり、選択率の低い下位 3 項目は「公務員・教員等の採用試験対策のための勉強」（0.0%）、「社会活動」（0.0%）、「特にない」（4.5%）であった。博士後期課程 3 年次生では、選択率の高い上位 2 項目は「専門分野の勉強」（87.5%）、「卒業研究」（87.5%）であり、選択率の低い下位 4 項目は「公務員・教員等の採用試験対策のための勉強」（0.0%）、「社会活動」（0.0%）、「アルバイト」（0.0%）、「その他」（0.0%）であった。

3.11 読書量

「月に 4 冊以上」、「月に 2～3 冊くらい」、「月に 1 冊くらい」、「ほとんど読まない」から選択を求めた。選択率（%）は次の表のとおりであった。

2022 年度	学域 4 年次	博士前期 2 年次	博士後期 3 年次
月に 4 冊以上	6.8	7.9	25.0
月に 2～3 冊くらい	15.9	12.4	0.0
月に 1 冊くらい	31.3	40.4	50.0
ほとんど読まない	46.0	39.3	25.0

昨年度と比較すると、学域 4 年次において、「月に 1 冊くらい」が大幅に上昇し（令和 3（2021）年度 26.8%、令和 4（2022）年度 31.3%）、「ほとんど読まない」が大幅に減少した（令和 3（2021）年度 53.5%、令和 4（2022）年度 46.0%）。

3.12 自習時間（週あたり）

「10 時間以上」、「7～10 時間未満」、「5～7 時間未満」、「4～5 時間未満」、「3～4 時間未満」、「2～3 時間未満」、「1～2 時間未満」、「1 時間未満」、「自習はしていない」の 9 項目から選択を求めた。選択率（%）は次の表のとおりであった。

2022 年度	学域 4 年次	博士前期 2 年次	博士後期 3 年次
10 時間以上	33.5	27.0	50.0
7～10 時間未満	9.1	7.9	12.5
5～7 時間未満	10.2	9.0	0.0
4～5 時間未満	10.8	15.7	12.5
3～4 時間未満	10.2	15.7	0.0
2～3 時間未満	10.2	6.7	12.5
1～2 時間未満	7.4	6.7	12.5
1 時間未満	5.7	5.6	0.0
自習はしていない	2.8	5.6	0.0

経年変化を見ると、自習時間は増加傾向にあり、例えば「10 時間以上」の選択率は学域 4 年次において令和 3（2021）年度 20.4%、令和 4（2022）年度 33.5%となっている。

3.13 学びへの取り組み

5 項目について、「よくした」、「時々した」、「ほとんどしなかった」、「まったくしなかった」の 4 段階で回答を求めた。「よくした」と「時々した」の回答率の合計を肯定回答率とする。

学域 4 年次生において、各項目の肯定回答率は「必要な予習や復習はしたうえで授業に臨む」が 68.2%、「授業中、グループワークやディスカッションに積極的に参加する」が 81.3%、「板書や投影資料以外でも大事なことはノートにとる」が 85.8%、「授業の内容でわからない

いことは教員に質問や相談に行く」が 50.6%、「授業と関わりのないことでも、興味を持ったことについて自主的に学習する」が 69.9%であった。

博士前期課程 2 年次生において各項目の肯定回答率は、上に挙げた項目順でそれぞれ、64.0%、76.4%、80.9%、51.7%、78.9%であり、博士後期課程 3 年次生では、75.0%、62.5%、75.0%、62.5%、62.5%であった。

3.14 専門ゼミ・研究室への所属状況

学域 4 年次生では、「所属している」が 98.9%であり、「応募したが、入れなかった」が 0.0%、「応募しなかった」が 0.6%、「応募や選考がまだ始まっていない」が 0.6%であった。博士前期課程 2 年次生では、「所属している」が 98.9%、「応募したが、入れなかった」が 1.1%、「応募しなかった」が 0.0%であった。博士後期課程 3 年次生では、「所属している」が 87.5%、「応募したが、入れなかった」が 12.5%であった。

3.15 身につけたい英語のレベル

レベルに応じて、「英語圏の大学・大学院への留学や、英語を使って仕事をする際に支障がないレベル」、「英語圏に長期滞在して生活するのに支障がないレベル」、「身の回りの話題に関してやりとりができ、海外ホームステイや短期の語学研修で楽しめるレベル」、「道順やメニューの説明など簡単な質問に答えられるレベル」、「英語を積極的に身につけようとは考えていない」の 5 段階から回答を求めた。選択率 (%) は次の表のとおりであった。

2022 年度	学域 4 年次	博士前期 2 年次	博士後期 3 年次
英語圏の大学・大学院への留学や、英語を使って仕事をする際に支障がないレベル	13.6	18.0	37.5
英語圏に長期滞在して生活するのに支障がないレベル	13.6	15.7	25.0
身の回りの話題に関してやりとりができ、海外ホームステイや短期の語学研修で楽しめるレベル	40.3	38.2	12.5
道順やメニューの説明など簡単な質問に答えられるレベル	22.2	25.8	12.5
英語を積極的に身につけようとは考えていない	10.2	2.2	12.5

3.16 留学経験・留学意向

多くの学生に留学経験も意向もなく、その割合が増加していることが分かった。

学域4年次生では、「留学経験なし」が84.1%であり、「留学はしたくない」が56.8%であった。経年変化は「留学経験なし」について、令和3(2021)年度が78.2%であり、「留学はしたくない」について、令和3(2021)年度が48.6%であった。

博士前期課程2年次生では、「留学経験なし」が73.0%であり、「留学したくない」が52.8%であった。博士後期課程3年次生では、「留学経験なし」が50.0%であり、「留学はしたくない」が25.0%であった。

3.17 大学納得度

「とてもそう思う」、「どちらかといえばそう思う」、「あまりそう思わない」、「まったくそう思わない」の選択を求めた。「とてもそう思う」と「どちらかといえばそう思う」の選択率の合計を肯定選択率(%)とした。

学域4年次生では、肯定選択率が平成30(2018)年度86.3%、令和元(2019)年度85.7%、令和2(2020)年度87.6%、令和3(2021)年度91.5%、令和4(2022)年度94.9%であり、上昇傾向にある。博士前期課程2年次生と博士後期課程3年次生の肯定選択率はそれぞれ92.1%、100.0%(令和2(2020)年度はそれぞれ93.2%、85.7%)であった。

3.18 興味関心の一致度

「一致している」、「一致していないが、興味関心に近い分野」、「興味関心とは異なる分野」、「まだ自分の興味関心がわからない」、「所属する学部・学科の学問内容がよくわからない」、「その他」から選択を求めた。

学域4年次生では「一致している」が67.0%、「一致していないが、興味関心に近い分野」が23.9%、「興味関心とは異なる分野」が3.4%、「まだ自分の興味関心がわからない」が5.7%、他が0.0%であった。経年変化では「一致している」が上昇傾向にあった(令和2(2020)年度58.8%、令和3(2021)年度62.0%)。

博士前期課程2年次生では「一致している」が80.9%、「一致していないが、興味関心に近い分野」が13.5%、「興味関心とは異なる分野」が4.5%、「まだ自分の興味関心がわからない」が1.1%、他が0.0%であった。

博士後期課程3年次生では「一致している」が100.0%、他が0.0%であった。

3.19 他大学の再受験や退学の検討

「検討したことはない」、「以前検討していたが、今は考えていない」、「現在、検討している」の3段階から選択を求めた。

学域4年次生では、「検討したことはない」が85.2%、「以前検討していたが、今は考えていない」が13.1%、「現在、検討している」が1.7%であった。経年変化は、「検討したことはない」が大きく上昇した(令和2(2020)年度76.3%、令和3(2021)年度81.7%、令和4(2022)年度85.2%)。

博士前期課程 2 年次生において、各項目の回答率は上記の順に 82.0%、16.9%、1.1%であり、博士後期課程 3 年次生においては 75.0%、25.0%、0.0%であった。

3.20 適応状況

3 項目について、「非常にあてはまる」、「ややあてはまる」、「あまりあてはまらない」、「まったくあてはまらない」の 4 段階で回答を求めた。「非常にあてはまる」と「ややあてはまる」の回答率の合計を肯定回答率 (%) とする。

学域 4 年次生では、「勉強面／進路面で相談できる友人が学内にいる」が 72.3%、「ちょっとしたことでも相談できる教員がいる」が 59.1%、「大学の校風や雰囲気は、自分に合っている」が 85.8%であった。

博士前期課程 2 年次生では各項目の肯定回答率は上記の順に 80.9%、69.7%、88.8%であり、博士後期課程 3 年次生では 37.5%、75.0%、87.5%であった。

3.21 困っていること

「困っていることはない」、「やりたいこと（就職・進路面）が見つからない」、「希望する進路に進めるか不安」、「授業についていけない」、「学びたいことが見つからない」、「学びたいことが学べていない」、「教員との人間関係」、「友人、異性、先輩・後輩との人間関係」、「経済的な事情」、「その他」の 10 項目を自由に選択することで回答を求めた。

学域 4 年次生において、回答率の高い上位 3 項目は「困っていることはない」(42.6%)、「やりたいこと（就職・進路面）が見つからない」(23.3%)、「希望する進路に進めるか不安」(15.3%) であった。経年変化を見ると、令和元（2019）年度から令和 2（2022）年度までの調査において上位 3 項目は順位を含めて同じであった。

博士前期課程 2 年次生では、回答率の高い上位 3 項目が「困っていることはない」(68.5%)、「教員との人間関係」(9.0%)、「経済的な事情」(9.0%) であった。博士後期課程 3 年次生では、「困っていることはない」(50.0%)、「希望の進路に進めるか不安」(25.0%)、「友人、異性、先輩・後輩との人間関係」(12.5%) であった。

3.22 居住形態

学域 4 年次生では、「家族と同居」が 63.1%、「一人暮らし」が 31.3%、「寮」が 5.7%、「それ以外」が 0.0%であった。経年変化を見ると「家族と同居」が上昇傾向にあることが分かった（令和元（2019）年度 48.4%、令和 2（2022）年度 51.4%、令和 3（2021）年度 59.2%、令和 4（2022）年度 63.1%）。

博士前期課程 2 年次生では、「家族と同居」が 52.8%、「一人暮らし」が 37.1%、「寮」が 9.0%、「それ以外」が 1.1%であった。博士後期課程 3 年次生では、「家族と同居」が 50.0%、「一人暮らし」50.0%、「寮」が 0.0%、「それ以外」が 0.0%であった。

3.23 卒業後の進路

「企業・団体」、「公務員（教員・保育士を除く）」、「教員・保育士」、「専門資格職（教員・保育士を除く）」、「大学院進学」、「自営業（家業など）」、「起業」、「その他」、「未定」の項目から選択を求めた。

学域4年次生では「大学院進学」が63.1%で最も多く選択された。次点は「企業・団体」の33.5%であった。

博士前期課程2年次生では、「企業・団体」が86.5%で最も多く選択され、次点が「大学院進学」の10.1%であった。博士後期課程3年次生では、「企業・団体」が37.5%で最も多く選択され、次点が「その他」の25.0%であった。

3.24 専門領域と希望進路との関係

「大学で学ぶ専門分野と直結した職業に必ず就きたい」、「大学で学ぶ専門分野と直結した職業に就くことを望んでいるが、それ以外の職業でも構わない」、「大学で学ぶ専門分野と直結するかどうかにはこだわらない」、「大学で学ぶ専門分野とは関係のない職業に就きたい」、「その他」、「わからない・未定」から選択して回答することを求めた。

学域4年次生においては、各項目の回答率は上記の順に、17.0%、47.2%、33.5%、1.7%、0.6%、0.0%であった。博士前期課程2年次生においては、20.2%、31.5%、38.2%、4.5%、2.2%、3.4%であり、博士後期課程3年次生においては、12.5%、62.5%、12.5%、0.0%、12.5%、0.0%であった。

3.25 進路への準備状況

4項目に対して「非常にあてはまる」、「ややあてはまる」、「あまりあてはまらない」、「まったくあてはまらない」を選択することで回答を求めた。「非常にあてはまる」と「ややあてはまる」の選択率の合計を肯定回答率とする。

項目「自分の性格や行動パターン、得意分野などを理解している」に対して、学域4年次生の肯定回答率は90.4%であり、経年変化はほぼ横這いであった。博士前期課程2年次生では96.6%、博士後期課程3年次生では75.0%であった。

項目「社会や職業のことを知るために、毎日、ニュースをチェックしている」に対して、学域4年次生の肯定回答率は48.3%であり、令和3（2021）年度と比べて下降した（令和3（2021）年度52.1%）。博士前期課程2年次生では60.7%、博士後期課程3年次生では50.0%であった。

項目「自分が付きたい職業や仕事が明確になっている」に対して、学域4年次生の肯定回答率は48.9%であり、令和3（2021）年度（46.5%）とほぼ同等であった。博士前期課程2年次生では85.4%、博士後期課程3年次生では75.0%であった。

項目「自分の将来就きたい仕事、やりたいことに向けて準備をしている」に対して、学域4年次生の肯定回答率は47.2%であり、令和3（2021）年度（47.2%）と同等であった。博士前期課程2年次生では87.6%、博士後期課程3年次生では75.0%であった。

3.26 インターンシップの経験

「インターンシップには参加したことがない」と回答した割合が学域 4 年次生では 60.8% と最も高かった。一方、博士前期課程 2 年次生では 16.9%、博士後期課程 3 年次生では 50.0% であった。

インターンシップに参加したことがある中で、もっとも多い期間は、学域 4 年次生では「1～2 日」(22.2%)、博士前期課程 2 年次生では「1～2 日」(36.0%)、博士後期課程 3 年次生では「1～2 日」と「2 週間を超える」がともに 42.9% であった。